

〔目的〕 演者はホーレンソーの成分として、3,5,6,7,3',4'位に酸素置換基を持つ三種の flavonoid 4'-glucuronide を単離証明し (Phytochemistry, 23, 2043(1984))、また最近では最も極性の高い区分より patuletin 3-O- β -D-glucopyranosyl-(1 \rightarrow 6)-[[1 \rightarrow 2)- β -D-apiofuranosyl]- β -D-glucopyranoside (I) を証明したことを報告した (九州支部研究発表会、昭和60年4月20日)。今回はしよりもやゝ極性の小さい区分より二種のフラボノイド配糖体を単離し、これらの化学構造を決定した。

〔結果と考察〕 ホーレンソーのメタノール抽出物を DCCC にかける次に溶出する区分から物質 II, C₂₈H₃₂O₁₈·H₂O, mp 220-222°, $[\alpha]_D^{27}$ -22.3°(MeOH), を、更に次の区分から物質 III, C₂₉H₃₄O₁₈·H₂O, mp 192-194°, $[\alpha]_D^{26}$ 19.0°(MeOH), を得た。化学的方法および各種スペクトルの結果から、物質 II は patuletin 3-O- β -D-glucopyranosyl-(1 \rightarrow 6)- β -D-glucopyranoside であり、物質 III は spinacetin 3-O- β -D-glucopyranosyl-(1 \rightarrow 6)- β -D-glucopyranoside であることを証明した。

ホーレンソーの成分に関する演者の研究結果を総合すると、すでに報告されている spinacetin と patuletin は本来配糖体の形で植物体中に含有されていることは明白である。